

報 恩 寺 だ よ り

昭和53年1月1日

神奈川県高座郡綾瀬町寺尾889

おたすけ観音 報 恩 寺

電話 0467-78-7160

あけまして おめでとう御座居ます。綾瀬も今年は市になる予定です。

諸行無常、諸法無我、全てのものは 変化し 移りゆく、良い方へ変化する場合もあり、又逆の場合もあります。市になっても一般の生活は変化は無いでしょうが、少くとも、田舎から都会になることであり、文化向上の一段階です。住んでいる人の物の考え方も変化させなければならないはずです。

◎ 650年前の法音寺 (1,329年)

380年前 報恩寺は朝岩尊胤大和尚によって開山されましたが、先月農協から綾瀬の歴史の概要を書く事を依頼されたので、数年前に購入して置いた「神奈川県史」を調べましたら「入来文書」があり、その中に650年前の法音寺が記載されていました。

1、相模国吉田上庄寺尾村内

在家五宇 山野在之、是者、法音寺押領之

1,329年は大本山総持寺の御開山けい山禪師が御遷化された4年後であり、楠木正成が活躍し、御だいご天皇、護良親王、足利尊氏等の建武の中興や、それに続く南北朝時代が始まる数年前です。

上の文書は渋谷重国の孫の孫渋谷^い惟重の子渋谷重名(寺尾重名)の書いたもので、10年前の^い惟重の書類には未だ寺の事が無いので、この間に渋谷^い惟重(寺尾^い惟重)が開基となり、法音寺が創立され、応永13年(1,406)の宝きょう印塔も現在報恩寺に在り、同時代の五輪塔(武士の墓石)も多数あるので、その後も続き、大永4年(1,524)東京の渋谷氏が、小田原の二代目北条氏綱により滅ぼされた同じ頃、綾瀬の渋谷氏も戦いに敗れ、それと共に約200年続いた法音寺も無住となり、約80年経て、曹洞宗として、慶長7年(1,602)に報恩寺と改めて再建されたと考へられます。

入来文書(いりきもんじょ)は渋谷重国の子光重の五男 入来院定心の子孫、入来家に伝えられた文書で、入来氏は薩摩国の渋谷氏の代表的な家柄となったが本蓼川、蓼川を約370年間領していた。定心の四男重経は薩摩に本領が有るが寺尾に住し、寺尾重経と号し、その子孫に伝えられた文書も入来文書の中に含まれ、「寺尾家文書」として日本の歴史学界では有名です。

◎ 特別御寄進

特別御寄進を被露申し上げて、各位の御芳志に感謝すると共に、供養菩提の御冥福をお祈りいたします。

特別寄進

綾瀬と渋谷氏 820年前~450年前までの370年間

→1,329年には寺尾の在家二字の領主、残りの寺尾は法音寺の領地?

寺尾の領主~~寺尾氏、重経から

桓武天皇——原親王——平の高望王

平の良門——平の将門

平の良文——武基——武綱——基家——重家

重国——光重——定心

三郎明重

寺尾重経

寺尾重通

寺尾重重

寺尾重名

寺尾道賢

法音寺開基!

金王丸 (東京の渋谷の領主代理、源の頼朝の父義朝の重臣)

諸重——重位——重○——重○——重○——重高——重良——重盛——重聖——定経——通○——定寧——定明——公和——熊之助 (慶応2年生)

本蓼川、蓼川 (藤意) の領主~~入来院氏

入来院氏

重国

光重

元祖 定心

2代 明重

3代 公重

4代 重基

5代 重勝

6代 重門

7代 重頼

8代 重長

9代 重茂

10代 重豊

11代 重聡

12代 重朝

13代 重嗣

14代 重豊

15代 重時

16代 重高

1,159年の平治の乱の時には既に綾瀬附近を領していた。

→1,569年、島津義久に所領を献じ、その後代々家老職を勤め重きをなした。

1,490年、藤意屋敷立野を相続した。

17代 重通——18代 重頼——19代 重治——20代 重堅——21代 規重——22代 重矩——23代 定恒——24代 定勝——25代 定勝——26代 定矩——27代 定経——28代 定極——29代 公寛——30代 重通——31代 重光——32代 重賢——33代 重尚 (当主)

上深谷の領主~~岡本氏

定心

三郎明重

三男公重

五郎重賢

重賢

重継

静重

重知

重興

尚重

和重

重仁

重置

重直

重樹

重堅

重則

重堅

重博

重載

1,288年吉田庄上深谷郷内 田在家を相続した。

重国——光重

——渋谷太郎 重直

——早川次郎 実重~東郷氏の元祖

——遠馬三郎 重保~祇答院氏の元祖

——大谷四郎 重諸~鶴田氏の元祖

——曾司五郎 定心~入来院氏の元祖

——落合六郎 重重定~高城氏の元祖

落合上村の領主~~泰長院文書より

重通——重職——王寿丸

→1,348年吉田上庄落合上村の屋敷と藤意の土地を相続した。